

九州の海のこと、 知っていますか？

講座内容

『さまざまな顔と性格を持つ九州の海』

▶ 松野 健 (九州大学応用力学研究所 教授)

『気象や気候の変化と九州の海』

▶ 藤本敏文 (福岡管区気象台 海洋情報調整官)

『多くの魚を育む九州の海』

▶ 山田東也 (西海区水産研究所 海洋環境グループ長)

司会進行

岸 真弓 (気象予報士・気象キャスター)

第1回

海の科学講座 in 九州

～海と海の生き物の話～

2014年 8月 10日 [日] 13:00-16:00 (開場 12:30)

会場：九州大学西新プラザ大会議室 (福岡市早良区西新 2-16-23)

参加無料！

海の科学講座への招待

「海」という言葉からどんなことを想像しますか？ 海水浴や潮干狩り、さらにダイビングやサーフィンなど海で遊ぶことを思い浮かべる人は多いと思います。一方、海は様々な生物の生息の場でもあり、われわれにとっては豊かな食料資源を提供してくれるエネルギー源でもあります。海は地球表面の7割を占め、そのエネルギーは、生物を通してだけでなく、巨大な熱エネルギーとして気候にも影響を及ぼしています。海は私たちの生活の場からは離れたところがありますが、実は大気や水産物を通して私たちと密接に結びついています。

本講座は、普段触れる機会の少ない、海の振る舞いや地球環境への役割、今海で起こっていることなどを、高校生や一般市民の方々に知ってもらおうと、九州で海や海の生き物のことを調べている専門家が分かりやすく講義する企画です。開催は、毎年1回の連続講座の予定で、今年はその第1回目です。未知の海に興味を惹かれる方、海の生き物に親しみを感じる方、海に詩的情感を揺さぶられる方、なんだかよくわからないけど、面白そうだな、と思った方、ぜひ参加してみてください。

講座内容・講師紹介



『さまざまな顔と性格を持つ九州の海』 講師：松野 健（九州大学応用力学研究所 教授）

九州の海はとてもバラエティに富んでいます。有明海は満潮と干潮の差が5mにもなりますが、すぐ隣の大村湾ではその差は1mにもなりません。なぜそんな違いが生まれるのでしょうか。九州の南を流れる黒潮は、北太平洋をめぐる巨大な海流の一部で、熱帯域から熱を運んできます。また、九州の西に広がっている東シナ海では、大陸起源の様々な物質が環境に影響を及ぼしています。九州を囲むさまざまな海の姿かたちを科学的な視点から紹介します。



『気象や気候の変化と九州の海』 講師：藤本敏文（福岡管区気象台 海洋情報調整官）

気象庁では、空だけではなく海も測っています。各地に設置した波浪や潮汐の観測所、人工衛星や船からの観測データを収集し、海の水温、波、潮汐の状況を監視しています。また、これらのデータを基に天気予報などの防災情報や地球温暖化の影響などの気候情報を皆さんに提供しています。今回の講演では、気象庁が長年にわたって蓄積してきた観測データやそれを分析した結果を用いて、九州周辺の波や潮汐、海水温の変化などの特徴を気象や気候の観点から紹介します。



『多くの魚を育む九州の海』 講師：山田東也（西海区水産研究所 海洋環境グループ長）

魚はどこで生まれて、どこまで泳いでいくのでしょうか？たとえば東シナ海で生まれたブリは北海道近くまで行き、大きく成長して、また卵を産むために東シナ海まで戻ってくると言われています。しかしその生活史は魚それぞれです。九州周辺の海にはたくさんの種類の魚がいて、東シナ海だけでも約1100種の魚が報告されていますが、その生活史はよくわかっていないものがほとんどです。最近の研究でわかってきた、九州に水揚げされる代表的な魚の一生を紹介します。

司会者



岸 真弓（気象予報士・気象キャスター）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士。日本気象協会に所属した後独立。現在、福岡と広島で気象キャスターとして、テレビやラジオに出演中。また、野菜ソムリエ等の資格を活かし、気象と農業を結びつけ、講演活動なども多数おこなっている。



地下鉄西新駅7番出口より徒歩約10分
駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

問い合わせ：092-725-3613（福岡管区気象台 地球環境・海洋課）

共 催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、西海区水産研究所

後 援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

